

事業所名

ホップステップ（放課後等デイサービス）

支援プログラム（参考様式）

作成日

2024年

11月

27日

法人（事業所）理念		「常に児童と保護者の幸せを考え、自らの幸せも目指す」➡子どもにだけ支援をおこなって家庭の幸せとならないケースが多く、子どもにとって絶対的な存在である保護者の支援の重要性を説いています。加えて、自らが幸せでなければ他人の人生に寄与する事はできない（長続きしない）という考え方から、従業員満足度の追求もしています。							
支援方針		①できない事は代替手法を用いる：向いていない事を無理に頑張ると生きづらいので、文明の利器を使えば問題なく生きていく。（方向音痴ならGoogleマップの使い方を学ぶ等） ②過剰な承認はない：承認欲求を過大にしてしまい、行動の原動力が「褒められたいから」になってしまうと、必要な行動であっても褒められなければ向き合わなくなるため。 ③関係機関との連携を重視：子どもを取り巻く大人たちが同じ方向性での支援を目指さなければ、良い結果には繋がらないため。							
営業時間	平日	10時	0分から	19時	0分まで	送迎実施の有無	あり		
	学校休業日	8時	0分から	17時	0分まで				
		支 援 内 容							
本 人 支 援	健康・生活	運動：主に有酸素運動を通して、脳血流量を増加させる事によって学習効果の増大を狙う。また適度に疲労する事は就寝時間を早めたり（夜更かし防止）、睡眠の質の向上にも繋がる。また、運動にはルールを設けるため、他者と行動を共にする場合における立ち居振る舞いや、運動をおこなっている他者に対する肯定的な声掛け（応援等）により、日常生活での他者への敬意を学ぶ。 調理イベント：手指の操作（巧緻性）を養うと共に、食べるという行為の為に経ていかなければならないプロセスを学ぶ。（材料の買い出しからおこなう）							
	運動・感覚	運動：運動の目標として、単純に身体機能の維持向上というだけでなく、重力に対して上下左右への感覚刺激をたくさん脳にインプットする。これにより、感覚欲求を満たしつつ情緒を安定させる事や感覚統合を狙っている。 工作：手指の操作（巧緻性）の獲得、道具の使い方を学ぶ。							
	認知・行動	運動：サークルにおいては様々な障害を設定し、空間認知力の獲得を促している。情報取得から行動の選択というプロセスの中で混乱してしまう児童が多い事から、職員が適宜介入しながら、自立した選択ができるようになっていく。 また、始まりの会などで、天気・気温・日付の把握と確認による感覚・数の認知形成と、1日の活動を示すタイムテーブルの確認による時間の認知形成。							
	言語 コミュニケーション	挨拶が全てのコミュニケーションの基盤となるため、挨拶を欠かす事の無いよう職員も一緒になってしっかりとおこなっていく。 終わりの会で活動振り返りと気持ちをプレゼンテーションする事による言語の表出と受容。 他児とのコミュニケーションの齟齬は必ず発生する事なので、職員が適宜介入してお互いに何を感じて、何を思っているのかを分かるまで支援する。							
	人間関係 社会性	運動：ルールの傾聴や遵守も運動を通して学ぶ。 外出イベント：事業所外での公の場において、どんなマナーやルールがあるのか、どのように過ごすべきかを学ぶ。							
家族支援		保護者様からの相談の窓口は常に開いており、定期的な面談以外でも、LINEで繋がりを持つ等、相談しやすい環境を整えています。また、保護者参加型イベントや保護者会を開催し、横軸での繋がりを支援します。	移行支援	保護者様の承諾のもと、園や学校への訪問等で得た情報は関係機関と共有し、児童がどの場所においても円滑な生活をしていくよう支援します。					
地域支援・地域連携		園・学校の先生との情報共有を欠かさずおこないます。 必要に応じて、他法人とも情報共有をおこないます。	職員の質の向上	社内外での研修（接遇・療育・感覚統合・保護者支援・管理者向け研修など） 児発管・専門的支援を実施する職員達による横軸でのミーティング					
主な行事等		季節に関する事を外出・工作・調理で学びます。 保護者参加型イベントで、お子様自身が自らの成長を親に見せる機会を設けています。							

事業所名

ホップステップ（児童発達支援）

支援プログラム（参考様式）

作成日

2024 年

11月

27 日

法人（事業所）理念	「常に児童と保護者の幸せを考え、自らの幸せも目指す」➡子どもにだけ支援をおこなっても家庭の幸せとならないケースが多く、子どもにとって絶対的な存在である保護者の支援的重要性を説いています。加えて、自らが幸せでなければ他人の人生に寄与する事はできない（長続きしない）という考え方から、従業員満足度の追求もしています。						
支援方針	①できない事は代替手法を用いる：向いていない事を無理に頑張ると生きづらいので、文明の利器を使えば問題なく生きていく。（方向音痴ならGoogleマップの使い方を学ぶ等） ②過剰な承認はしない：承認欲求を過大にしてしまい、行動の原動力が「褒められたいから」になってしまふと、必要な行動であっても褒められなければ向き合わなくなるため。 ③関係機関との連携を重視：子どもを取り巻く大人たちが同じ方向性での支援を目指さなければ、良い結果には繋がらないため。						
営業時間	月～土	10時	0分から	19時	0分まで	送迎実施の有無 あり	
	支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	運動：主に有酸素運動を通して、脳血流量を増加させる事によって学習効果の増大を狙う。また適度に疲労する事は就寝時間を早めたり（夜更かし防止）、睡眠の質の向上にも繋がる。また、運動にはルールを設けるため、他者と行動を共にする場合における立ち居振る舞いや、運動をおこなっている他者に対する肯定的な声掛け（応援等）により、日常生活での他者への敬意を学ぶ。					
	運動・感覚	運動：運動の目標として、単純に身体機能の維持向上というだけでなく、重力に対して上下左右への感覚刺激をたくさん脳にインプットする。これにより、感覚欲求を満たしつつ情緒を安定させる事や感覚統合を狙っている。					
	認知・行動	運動：サークットにおいては様々な障害を設定し、空間認知力の獲得を促している。情報取得から行動の選択というプロセスの中で混乱してしまう児童が多い事から、職員が適宜介入しながら、自立した選択ができるように関わっていく。 また、始まりの会などで、天気・気温・日付の把握と確認による感覚・数の認知形成と、1日の活動を示すタイムテーブルの確認による時間の認知形成。					
	言語 コミュニケーション	挨拶が全てのコミュニケーションの基盤となるため、挨拶を欠かす事の無いよう職員も一緒になってしっかりとおこなっていく。 終わりの会で活動振り返りと気持ちをプレゼンテーションする事による言語の表出と受容。 他児とのコミュニケーションの齟齬は必ず発生する事なので、職員が適宜介入してお互いに何を感じて、何を思っているのかを分かるまで支援する。					
	人間関係 社会性	運動：ルールの傾聴や遵守も運動を通して学ぶ。 自由時間：この時間帯は、他児との関わり方を指導するソーシャルスキルトレーニングとなります。					
家族支援	保護者様からの相談の窓口は常に開いており、定期的な面談以外でも、LINEで繋がりを持つ等、相談しやすい環境を整えていきます。また、保護者参加型イベントや保護者会を開催し、横軸での繋がりを支援します。			移行支援	保護者様の承諾のもと、園への訪問等で得た情報は関係機関と共有し、児童がどの場所においても円滑な生活をしていくよう支援します。		
地域支援・地域連携	園の先生との情報共有を欠かさずおこないます。 必要に応じて、他法人とも情報共有をおこないます。			職員の質の向上	社内外での研修（接遇・療育・感覚統合・保護者支援・管理者向け研修など） 児発管・専門的支援を実施する職員達による横軸でのミーティング		
主な行事等	保護者参加型イベントで、お子様自身が自らの成長を親に見せる機会を設けています。						